



激動の時代に、学園内外の動きを敏感に捉え、  
 また高等教育・学問の記録はもちろん、  
 文学や芸術評論などの文化記事を満載し  
 報道しつづけた、学生新聞五〇年の記録！

# 大倉高商新聞 東京経済大学新聞



全5巻  
 別冊1

1928年4月  
 (昭和3年)



1978年1月  
 (昭和53年)

大倉高商新聞  
 東京経済大学新聞

第1巻

東京経済大学

大倉高商新聞・東京経済大学新聞

第1巻 昭和3(1928)年4月 昭和10(1935)年3月 東京経済大学

大倉高商新聞・東京経済大学新聞

第2巻 昭和10(1935)年4月 昭和19(1944)年4月 東京経済大学

大倉高商新聞・東京経済大学新聞

第3巻 昭和21(1946)年12月 昭和31(1956)年3月 東京経済大学

大倉高商新聞・東京経済大学新聞

第4巻 昭和31(1956)年1月 昭和32(1957)年3月 東京経済大学

大倉高商新聞・東京経済大学新聞

第5巻 昭和32(1957)年1月 昭和53(1978)年1月 東京経済大学

『大倉高商新聞』は、一九〇〇(明治三三)年、大倉喜八郎によって開校された大倉商業学校から大倉高等商業学校に昇格後の、一九二八(昭和三)年四月に創刊された。当時では全国高等商業学校の中で、小樽高商・山口高商と共に発行されていた学生新聞である。

掲載された論文や文化欄の寄稿者には、学外の著名な知識人も多く、戦後、東京経済大学となった後も、学園内外の動きを敏感に捉え報道しつづけた本紙は、大学の歴史を克明に記録すると共に、激動の日本近現代史における教育史・政治史・文化史・メディア史研究等の文献としても貴重な資料である。

このたび、「東京経済大学創立二〇周年」ならびに「葵友会(同窓会)創立二〇〇周年」を記念し、前身の大倉高商時代に創刊された『大倉高商新聞』の創刊号から、一九七八年一月までの『東京経済大学新聞』五〇年分を、縮刷版にて復刻刊行するものである。

「大倉高商新聞」「東京経済大学新聞」関連年表

年	月	大学・新聞関連事項	社会事項
1898 (明治31)年	1	大倉喜八郎、商業学校設立趣意書を公表	
1899 (明治32)年	2		実業学校令公布
1900 (明治33)年	9	東京・赤坂葵町に「大倉商業学校」開校	
1909 (明治42)年	5	同窓会設立	
1914 (大正3)年	7		第一次世界大戦はじまる
1919 (大正8)年	11	高等商業学校への昇格認可される	
1923 (大正12)年	9		関東大震災
1925 (大正14)年	3		治安維持法成立
1926 (昭和元)年	1		京都学連事件、最初の治安維持法適用される
1928 (昭和3)年	4	『大倉高商新聞』創刊、当初は月刊で発行。大倉喜八郎死去	
	10		文部省に学生課新設、各大学に学生主事を配置
1930 (昭和5)年	12	「紛擾事件」(学校と学生の対立により12月号発行停止)	
1931 (昭和6)年	9		満洲事変
1932 (昭和7)年	11	『大倉高商新聞』第50号発行	
1933 (昭和8)年	7		滝川事件
1937 (昭和12)年	7		盧溝橋事件 日中戦争本格化
1938 (昭和13)年	1	紙名を『大倉高商学報』に変更	
1941 (昭和16)年	12		アジア・太平洋戦争開始
1944 (昭和19)年	4	「大倉経済専門学校」に校名変更	
	7		『大学新聞』創刊 (東京帝国大学ほか21の大学新聞の統合紙)
1945 (昭和20)年	8		敗戦
1946 (昭和21)年	6	校舎を赤坂葵町から国分寺へ移転	
	12	『大倉経専学報』として再刊第1号発行 (ガリ版刷り)	
1947 (昭和22)年	3		教育基本法・学校教育法公布
	12	紙名を『大倉高商新聞』に変更	
1949 (昭和24)年	4	大学に昇格、「東京経済大学」開設。紙名も『東京経済大学新聞』に	
	7		三鷹事件
	10	創立50周年記念式典	
1952 (昭和27)年	4		サンフランシスコ講和条約発効
1953 (昭和28)年		この年から月2回発行へ	
1956 (昭和31)年	11	新聞部解散し「東京経済大学新聞会」発行となる	
1960 (昭和35)年	10	創立60周年記念式、新校歌「出づる日の光」発表 (作曲=團伊久磨)	
1964 (昭和39)年	10	第200号発行	東京オリンピック開催
1969 (昭和44)年	6	警察機動隊の構内乱入事件発生	
1976 (昭和51)年			ロッキード事件
1978 (昭和53)年	1	第300号発行	

創業者 大倉喜八郎

東京経済大学は、1900 (明治33)年、明治・大正期の実業界の雄である大倉喜八郎により、当時の赤坂葵町 (現在の東京・虎ノ門「ホテルオークラ」隣接地) に創立された大倉商業学校を前身とし、以来、大倉高等商業学校 (大倉高商)、大倉経済専門学校を経て、戦後、東京経済大学へと発展。

●略歴

- 1837年 (天保8年) 9月24日、現在の新潟県新発田市に生まれる。
- 1854年 (安政元年) 17歳で江戸に出る。その才を遺憾なく発揮し、商人として成功をおさめる。
- 1873年 (明治6年) 大倉組商會を設立し、ヨーロッパをはじめ世界各国との直貿易に進出。わが国における世界貿易の先駆けとなる。その後、東京電燈、帝国ホテルその他数多くの企業の設立に参画し役員に就任する。
- 1900年 (明治33年) 大倉商業学校 (東京経済大学の前身) を設立。
- 1917年 (大正6年) 合名会社大倉組を持株会社とし、大倉商事、大倉土木 (大成建設)、大倉鉱業を直系3社とする大倉財閥を形成し、財団法人大倉集古館を設立した。
- 1928年 (昭和3年) 4月22日没 享年90歳。

協力：東京経済大学



激動の時代の高等教育と学問の記録として

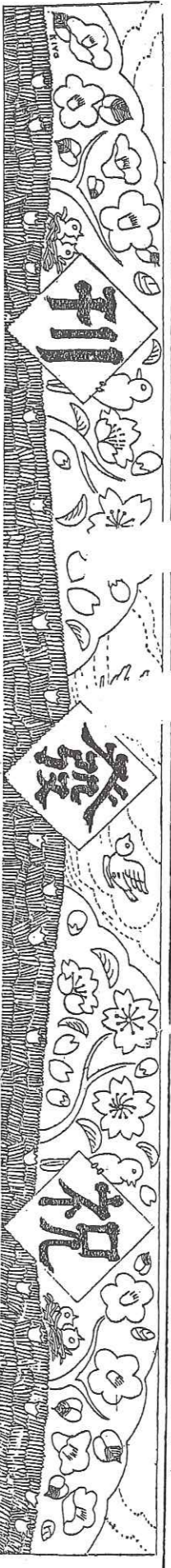
石井寛治 (東京大学名誉教授)

私は、東京大学を退職後、東京経済大学に一〇年間奉職したが、その間に『東京経済大学の一〇〇年』という写真を多用した大学史を編纂した。その時、学生生活の実態に迫る史料として度々参照したのが、一九二八年創刊の『大倉高商新聞』であり、『東京経済大学新聞』であった。そこには、学生たちの目から見た学園の姿が生きた生きと描かれているだけでなく、彼等が関心をもった社会と文化の記事が満載されていた。最初、学生の自主的な企画として誕生した高商新聞は、間もなく、その厳しい社会批判を危惧した学校当局の検閲下に置かれたが、それでも、三木清や戸坂潤ら哲学者や、服部之総・山川均・向坂逸郎らマルクス主義者の寄稿を仰ぐなど、学生らしい社会批判の姿勢を堅持すべく努めていた。一九三八年には遂に新聞部は廃止され、『大倉高商学報』に転換したが、戦後、東京経済大学の誕生とともに蘇った同紙は、学園に関する多彩な情報を載せるとともに、歴史学研究会や経済理論学会などの動向を紹介し、さらに諸学会で活躍する平田清明・井野隆一・井汲卓一・色川大吉を初めとする同大学の教員が、時代と学問の諸問題について健筆を振るうようになった。その意味で、この新聞は、多様な人材を供給したユニークな大倉高商・東京経済大学の記録であるとともに、「昭和」という激動の時代における学問と文化の貴重な記録であり、その復刻は日本近現代史に新たな光を当てるものとなる。

個性的な学生新聞『大倉高商新聞・東京経済大学新聞』

有山輝雄 (東京経済大学教授)

ジャーナリズムはいうまでもなく時代と社会の反映だが、学生新聞は時に先鋭的なまでに時代と社会を表現している。『大倉高商新聞』が創刊された一九二八年は学生新聞の全盛時代で、五〇以上の学生新聞が発行されていたといわれるが、そのなかにあつて『大倉高商新聞』は強い個性をもっていた。当時の紙面をみると多彩な学内情報を記録し報道する記事が豊富に載っているが、それだけでなく文学・芸術の評論など幅広い文化記事が目だっている。当時の大きな潮流であった教養主義が一つの基軸となつていたのである。しかし、それは他の多くの学生新聞でもみられたことだ。『大倉高商新聞』を際立たせているのは、もう一つの基軸として実業主義・実業専門教育をはっきり打ちだしていることである。教養主義と実業主義という二つの基軸をもつていたことは『大倉高商新聞』その後の『東京経済大学新聞』まで一貫して、教養主義と実業主義の両立は容易でなかったことは、教育や学生生活についての学生たちの活動に十分うかがえる。しかし、それが、また活力源となつてきたことも間違いない。今回復刻される『大倉高商新聞・東京経済大学新聞』は、そうした活力の記録であり、また二〇年間の時代と社会の記録として貴重で、広く活用されることを期待したい。



歓迎の辭

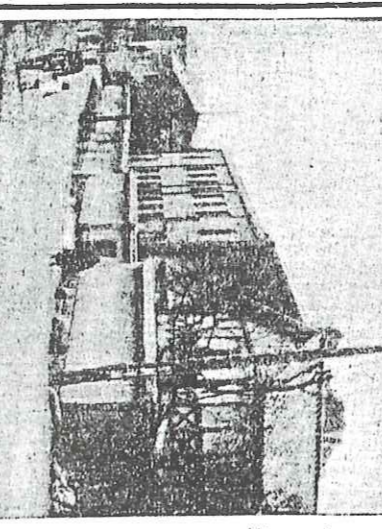
第一 諸君の御来臨は、本報の栄光に資するものにして、誠に歓迎の至りである。...

本報の創刊は、大正十三年四月十五日に於て、...

大倉高商の使命(上)

染村規覺

教育の目的は、人々の生活に於て、...



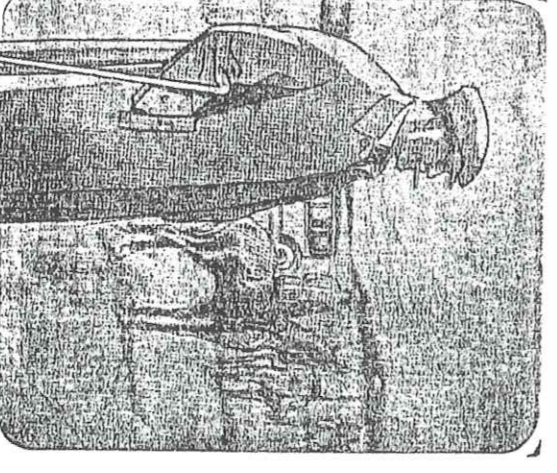
陽春 震南坂より

長部重雄 葵ヶ丘を去るに臨んで

長部重雄の葵ヶ丘を去るに臨んで、...

卒業者氏名 昭和二年度

- List of graduates from the second year of the school, including names and addresses.



仕立の上等と價格の廉 洋酒女香廣七高荷な

大倉高商 洋服店

前 停 電 町 巴 芝 三 六 六 一 番

Advertisement for '大衆政治' (Public Politics) magazine, listing various articles and authors.

Advertisement for '鼻クク子' (Nose Kukuko) medicine, featuring a circular logo and text describing its benefits for nasal ailments.

東京経済大学新聞

創刊五十周年記念号

創立五十周年記念を迎ふ



永遠の理想追求こそ 学園傳統の維持 學長抱負を語る



永遠の理想追求こそ 学園傳統の維持

大倉学園五十年の回顧 大倉学園五十年の回顧 田所 常雄



大倉学園五十年の回顧

【東京経済大学新聞】第14号(1949(昭和24)年10月15日)

大倉経専學報

再刊第一号

再刊に寄せて 學報班長 渡辺 直 嘗ての大倉學報が戦争のさ中に廃刊と儼然...

我が新國の 深の國証 学 國 新

【大倉経専學報】再刊第1号(1946(昭和21)年12月)

創刊25周年の歩み

不可缺の愛校精神 昭和三年に新聞発刊

大倉高商新聞から 東京経済大学新聞へ

戦前 戦後

振りだしに立つ努力

東京経済大学新聞となる

大倉高商新聞 大學昇格可能か 六月中に申請完了

# 葵祭記念号

## 東京経済大学新聞

発行所 東京経済大学新聞部  
編集者 廣津和郎  
印刷所 東京印刷局

### 創刊昭和三年 大倉高商新聞

### 葵祭記念号

発行所 東京経済大学新聞部  
編集者 廣津和郎  
印刷所 東京印刷局

本誌は昭和三年(一九二八年)に「大倉高商新聞」として創刊された。創立五十四周年を記念し、本年十一月五日に「葵祭記念号」を出版する。本誌は、創立以来、大学関係の諸君から多大の愛顧を蒙り、益々盛況を博している。この記念号では、創立の経緯、発展の経路、現在の状況、将来の展望などを詳しく紹介し、また、本学の特色、学生生活、教員生活なども詳しく紹介する。本誌の発展のためには、諸君の御愛顧、御協力をお願いする。本誌の発行所は、東京経済大学新聞部、東京都文京区湯島、東京経済大学本館内である。

# 期待の昇格決定し 東京経済大学雄々しく誕生

## 学生と校友の夢まさに成る

東京経済大学が、昭和二十四年三月十三日、大倉高商新聞をリニューアルして東京経済大学新聞と改題し、月刊紙として発行することを決定した。これは、創立五十年を記念する一大変革である。この決定は、学生と校友の夢まさに成る大きなステップとなる。新紙は、より充実した内容を提供し、大学関係の諸君からの御愛顧、御協力をお願いする。本紙の発行所は、東京経済大学新聞部、東京都文京区湯島、東京経済大学本館内である。

### 大倉高商新聞の歴史

大倉高商新聞は、昭和三年(一九二八年)に創立された。創立以来、大倉高商新聞は大倉組の発展と共に成長を遂げてきた。昭和二十四年三月十三日、大倉高商新聞は、東京経済大学新聞と改題し、月刊紙として発行することになった。これは、創立五十年を記念する一大変革である。この決定は、学生と校友の夢まさに成る大きなステップとなる。新紙は、より充実した内容を提供し、大学関係の諸君からの御愛顧、御協力をお願いする。本紙の発行所は、東京経済大学新聞部、東京都文京区湯島、東京経済大学本館内である。

「東京経済大学新聞」第57号(1953(昭和28)年11月5日)

「大倉高商新聞」復刊第8号(1949(昭和24)年3月13日)

# 虚飾の松川事件を裁く

被告達の訴えは 眞実を証明する

作家としての立場から 広津和郎

## 無茶な学長選挙

昭和二十八年十一月五日、東京経済大学の学長選挙が行われた。これは、創立五十四周年を記念する一大変革である。この選挙は、学生と校友の夢まさに成る大きなステップとなる。新紙は、より充実した内容を提供し、大学関係の諸君からの御愛顧、御協力をお願いする。本紙の発行所は、東京経済大学新聞部、東京都文京区湯島、東京経済大学本館内である。

## 第二次の復興計画

資金は父兄の先きに

本校は、創立五十四周年を記念し、本年十一月五日に「葵祭記念号」を出版する。本誌は、創立以来、大学関係の諸君から多大の愛顧を蒙り、益々盛況を博している。この記念号では、創立の経緯、発展の経路、現在の状況、将来の展望などを詳しく紹介し、また、本学の特色、学生生活、教員生活なども詳しく紹介する。本誌の発展のためには、諸君の御愛顧、御協力をお願いする。本誌の発行所は、東京経済大学新聞部、東京都文京区湯島、東京経済大学本館内である。

「東京経済大学新聞」第57号(1953(昭和28)年11月5日)

# 私学財政危機迫る

## 全国に先駆く本学教授会声明す

### 重要視される就職疎旋

私立大学は、戦後の教育改革によって、急速に発展してきた。しかし、最近では、私学財政の危機が迫りつつある。全国の私立大学で、財政危機を告げる声明が出ている。東京経済大学も、先駆けてこの危機を告げている。本学教授会は、就職疎旋を重要視する必要があると声明している。これは、創立五十年を記念する一大変革である。この決定は、学生と校友の夢まさに成る大きなステップとなる。新紙は、より充実した内容を提供し、大学関係の諸君からの御愛顧、御協力をお願いする。本紙の発行所は、東京経済大学新聞部、東京都文京区湯島、東京経済大学本館内である。

## 好天に恵まれた卒

本学は、創立五十年を記念し、本年四月十五日に「卒業号」を出版する。本誌は、創立以来、大学関係の諸君から多大の愛顧を蒙り、益々盛況を博している。この卒業号では、卒業生の経歴、卒業後の活躍などを詳しく紹介し、また、本学の特色、学生生活、教員生活なども詳しく紹介する。本誌の発展のためには、諸君の御愛顧、御協力をお願いする。本誌の発行所は、東京経済大学新聞部、東京都文京区湯島、東京経済大学本館内である。

「東京経済大学新聞」第1号(1949(昭和24)年4月15日)

# 大倉高商新聞 東京経済大学新聞



全5巻・別冊1

●体裁——A3判・上製本・函入・総1、506ページ（別冊のみA4判・並製）

●別冊——解説Ⅱ橋谷 弘（東京経済大学教授・経済学部長）・総目次・索引

刊行の辞Ⅱ村上勝彦（学校法人東京経済大学理事長）、

久木田重和（東京経済大学学長）、

加治 章（東京経済大学奨友会会長）

●収録——1928（昭和3）年4月15日（創刊号）より1978（昭和53）年1月17日号までの50年分

（各巻の収録年月内訳）

第1巻〔1928（昭和3）年4月～1935（昭和10）年2月までを収録〕

第2巻〔1935（昭和10）年4月～1944（昭和19）年4月までを収録〕

第3巻〔1946（昭和21）年12月～1959（昭和34）年3月までを収録〕

第4巻〔1959（昭和34）年4月～1968（昭和43）年3月までを収録〕

第5巻〔1968（昭和43）年4月～1978（昭和53）年1月までを収録〕

——以上、『大倉高商新聞』『東京経済大学新聞』

——以上、『東京経済大学新聞』

——以上、『東京経済大学新聞』

●推薦——石井寛治（東京大学名誉教授）・有山輝雄（東京経済大学教授）

●定価——本体揃価格100,000円＋税 ISBN978-4-8350-5961-7

●刊行——2010年1月一括刊行

●欠号について（以下の各号は未見もしくは未発行と思われる）

「大倉高商新聞」

第2～5号、7号、8号、10～12号、14号、15号、26号、28号、83号、88号、92号、93号、96号、112号、118～121号、134号、135号

「東京経済大学新聞」第75号

## 関連図書（復刻版）のご案内

帝國大學新聞社刊〔大正12年～昭和23年刊〕  
「帝國大學新聞」全17巻・別冊1

別冊Ⅱ記事・執筆者索引

「帝國大學新聞の歴史」〔殿木圭二〕

A4判・上製・函入・総7、746頁

揃定価Ⅱ300,000円＋税

東京大学新聞社刊〔昭和24年～昭和45年刊〕  
「東京大学新聞」全11巻・別冊1

別冊Ⅱ記事・執筆者索引

A4判・上製・函入・総4、276頁

揃定価Ⅱ200,000円＋税

三田新聞学会刊〔大正6年～昭和46年刊〕  
「三田新聞」全14巻・別冊1

別冊Ⅱ記事・執筆者索引

A4判・上製・函入・総5、154頁

揃定価Ⅱ260,000円＋税

一橋新聞発行所刊〔大正13年～昭和35年刊〕  
「一橋新聞」全7巻・別冊1

別冊Ⅱ記事・執筆者索引

B4判・上製・函入・総2、592頁

揃定価Ⅱ155,000円＋税

小樽高等商業学校編纂部刊  
〔大正14年～昭和55年刊〕  
「小樽商科大学新聞」緑丘」  
全3巻

記事・執筆者索引付き

B4判・上製・函入・総1、200頁

揃定価Ⅱ75,000円＋税

●表示価格はすべて税別。

不二出版

〒113-0023  
東京都文京区向丘1-2-12  
電話03-3881-2443  
フックスリ03-3881-2446  
振替00160-294084